

soda ▶ chia ▶ i grow each other

Lead【ニュース】

◇ リズム室あそび ◇ 6月22日(木)

短期大学の学生が体育などの授業で使用している教室(短大2号館・附属幼稚園に隣接)にて、毎年2回程行っています。

室内とはいえ、思いきり遊べる空間や環境を作ることは、子どもたちの心身の成長に欠かせない大切なことだと考えています。広い空間を使い、《物をまたぐ、斜面や段差の昇降、跳ねる、飛び下りる、走る、ぶら下がる》など、子どもたちの年齢と身体的な発達に沿った遊びを取り入れ、親子でのびのびと遊べる時間を設けるようにしています。



リズム室あそびでは、平均台や梯子などの大型遊具(巧技台)を用意して遊びました。0歳から3歳の子どもたちが、巧技台で作ったジャンプ台でお母さんと手を繋いで(または抱っこで)ジャンプしたり、マットの上でゴロゴロとダンゴムシをしたりと、各コーナーで思い思いの遊びを喜んでいました。ジャンプ台の他には、主に2歳・3歳になると、フープの電車ごっこ、床に並べたフープの輪を歩く、床にあるテープの線上を歩こうとするなど、大人が促して遊びを発展させるのではなく、自分たちで遊びを見つけていました。また、BGMで流れていた童謡を聴きながら、リズムにのって手や身体を動かす子、ジャンベやアゴゴベル、ビブラスラップなどの楽器に初めて触れ、音や感触に喜ぶ子もいました。



リズム室あそびは《静のあそび》ではなく、《動のあそび》が中心になります。遊びの動きが制限されることもなく、子どもたちがのびのびと遊ぶ姿を見て、「いつもなら危ないと止めてしまうことでも、こういった時には自分も一緒に楽しむどリフレッシュできるね」とお母さんたちの意見もありました。

いつもの室内とは違う場所で、入室した時には戸惑う様子も個々に見られましたが、周りの遊ぶ子どもたちを見て、徐々に場にも慣れていき、初めての物に興味をもち挑戦しようとする子が多く見られました。少し場所や環境を変えるだけで、不思議なことに遊具の順番や楽器の貸し借りのトラブルは殆どありませんでした。遊具の大きさや小物(フープや楽器)の数が丁度良かったのか、または、一つの遊びだけではなく、「他の物でも遊びたい」と分散できる環境になっていたのかは解りませんが、子どもたちにもたくさんの変化が見られました。もちろん大人もですが、いつもの室内ではついつい制限させてしまいがちな動きも、この日は「たくさん遊ぼう！」と笑顔で語りかけることができたのではないのでしょうか。

今年度は《動のあそび》にも焦点をあて、リズム室あそびの時間を増やしていこうと考えています。(本田)



◇ 第3回 たいむを育てる会(運営委員会) 議事録 ◇ 5月23日(金)13:00~13:50

出席者 安藤さん、羽柴さん、斎藤さん **欠席** 森竹さん、風間さん、小川さん **スタッフ** 村上、本田

1. 7、8月の行事予定

- ・フェルト制作 ➡ 6月に予定していたができなかったため、早めに予定を入れる。
- ・8月のまんぷくCAFEについて ➡ 昨年度は祭りをイメージして、中庭で行った。

たいむ ➡ 今年度は昨年を参考に手を加えて、食券(チケット)や看板などを用意してはどうか検討している。祭り感が味わえるような空間づくりをしたい。

2. ジャパンミートのお金の使い方

- ・コート掛け、水あそび用の玩具(5月の運営委員会にての案)
- ・子ども用の身長計(6月の運営委員会にての案) ➡ 乳児用 (校内の物を確認する)

※ 毎月、測定できるように検討してはどうか。

看護師(保健室:進藤)にお願いするとよいのではないか。

3. その他

- ・洋服交換コーナーについて ➡ 衣替えの時期になり、前シーズンの衣類をどうするか。

(たいむにて保管、途上国への支援、国内施設への寄付など)

- ・洋服が寄付などに回ると決まった場合、洋服の持ち込みについても保護者の同意が必要になる。(5月の運営委員会にての案)

6月の案 ➡ 信用がある学園内のボランティア活動に衣類などを託してはどうか。

教職員との連携も必要になる。

- ・水あそびのお知らせを張り出してはどうか ➡ 水あそびができることを知らない人にも伝わるように張り出してはどうか。

次回は、8月下旬予定 11:00~12:00

・9月の行事予定検討 など

*たいむでは、本来、**利用者と一緒に創る広場**を目指しています。今年度より、利用者の視点をさらに入れていきたいという想いと、広場の内容をもっと利用者に見え化するために、「たいむを育てる会(運営会議)」を開催しています。運営委員は、2月から募集をかけ、立候補してくださった6名の利用者の方です。

Episode【事例】

■ たいむでの経験を活かして ■

水や砂・泥あそびをする、季節のイベント(ドジョウつかみや流しそめんなど)に参加するなど、それぞれの場面で初めての経験をする親子がいます。また、他者とかかわる、繋がるということの楽しさや大切さを感じる保護者や学生、卒業生もいます。

1歳11ヶ月のKちゃんは、いつもは手に砂が付くことを嫌がり、砂あそびをしたがらなかったそうです。先日、学生とお母さんと一緒に中庭の畑の様子を見に行った際に、何気なくスタッフが「お砂で遊ぶ？」と声をかけたところ、Kちゃんは少し嫌そうに首を横に振っていました。そこで、大人たちは自分の手で砂を触り、団子にしたり型抜きをしたりしながら、Kちゃんの様子を見ることにしました。シャベルや玩具もKちゃんの手がすぐ届くこ



ろに置いたり、バケツで型抜きした砂を崩したりもしました。すると、Kちゃんは手に砂が付くことも気にせず、自分からシャベルやバケツを持ち、じっくりと砂あそびを喜んでいました。

大人が楽しそうに遊ぶ姿を見ていたことで、Kちゃんも気になったようです。Kちゃんは色々なものに興味をもち、怖がりながらもやってみようとする子であると思っています。ですから、Kちゃんが興味をもつであろう声かけも交えつつ、身近な大人の楽しそうな姿を見せられたことが良かったのではと考えます。また、どの場面でもKちゃんが「砂あそびをやりたい」と思ったかは解りませんが、こういう遊び方がある(シャベルやバケツなどの玩具の使い方)ということ、大人が行動で表したことも良かったのではとも考えています。

砂は作られた物ではない自然物であり、水を使えば土にも泥にも変化し、たくさんの水を流すことで無くなってしまいます。砂あそびは、自分の思い通りの形や物を作ることができるので、子どもにとって、頭を使う・感覚を養う大切な遊びです。今回は、砂あそびの面白さを少しでも味わえればと思ったのですが、思いのほかKちゃんが喜んでいたので様子を見つつ、遊びを展開していけたらと思います。

お母さん自身も、初めて自分から砂に触れたことが嬉しかったようで、「たいむで過ごすことで、娘の成長をととても感じる。」「学生さんも娘の名前を呼んで、遊んでくれることがとても嬉しい。」など話していました。



「在学中のたいむでの経験が今につながっている」と話していた卒業生のMさん。5年程前に卒業したMさんは、仕事が休みの日になると時々遊びに来ています。仕事が休みなら、ゆっくりと身体を休めたりリフレッシュに出かけたりすると思いますが、Mさんの場合はここ(たいむ)や学校に来ることが、リフレッシュの一つになっているようです。先日入室した際には絵本やCDを持って来ました。親子や学生と一緒に見ようと思ったようで、絵本を子どもたちのリクエストで決め、読み語りをしました。初めてお会いした親子でしたが、子どもたちに遊びに誘われたり、お母さん方との会話を楽しんだり、半日を過ごしていました。

在学中の彼の様子を思い出しても、時間があるときたいむに遊びに来ては、子どもたちと遊んだり、お母さん方と話をしたり、明るく元気な印象の学生でした。しかし、社会(障がいのある子どもの施設)に出てからは、保護者とのかわりに戸惑い、悩んだこともたくさんあったようですが、「保護者とのかわりには学生時代から自信がなかったけれど、卒業してから今振り返ると、たくさんのお母さん方に温かく見守っていただいたことはとても有難いことで、それが自分の強みになっているんですね。」などと話していました。

Mさんの言葉には、「実際にたいむで経験したことは、すぐには解らなくても知らず知らずのうちに自分の自信や力となっていた」ということのようにです。すぐには気が付くことは難しいですが、経験年数を重ねたことで、たいむで過ごした日々がMさんにとってプラスになっていたということは、スタッフ・先輩としてとても嬉しいことでした。

6月現在、嬉しいことに新規の親子や学生の入室が徐々に増え、毎日賑やかな声が響いています。そういった環境の中で、スタッフとして、子どもたちの身近な大人として、たくさんのことを一緒に経験できる時間や空間はとても貴重であると感じています。今回は、「みんなが共に育ちあえる場所」という再確認ができました。在学生だけではなく、卒業生とのかわりや繋がりも大切に、たいむならではの輪を広げていけたらと思います。(本田)

◇ 蚕(かいこ)の成長を観ました！ ◇

5月の終わりに1年生の学生が自宅で飼育している蚕を学校に持ってきました。深谷教員の研究室前(たいむの廊下に続く)で箱に入れて飼育が始まり、もぞもぞと動きながらエサである桑の葉を食べる蚕を見て、興味を示し触ろうとする子、気にはなるが触れない子と様々でした。

飼育開始から、わずか数日で蚕が自身の体に糸を巻き出し、マユを作り始めました。その時の様子を観ていた子どもも大人もじゅくと見入っていました。マユの色が黄色やクリーム色とあったので不思議に思っていたところ、蚕を持ってきた学生に“蚕の種類などによりマユの色が異なる”という話を聞き、スタッフも含めて大人たちは驚きました。蚕の隣に置いてあった本を手にとって読んだり、成長の過程を観察したりすることが日課の一つにもなりました。

マユがきれいな楕円になった時には、教員がマユを切り、中の蚕を取り出すと、サナギになった蚕が現れ、素手や筆で触りました。そして、小さな蛾(ガ)に姿を変えていきました。蛾になると口は無く、エサを食べることができず一週間程で命が絶えるそうです。その間に、卵を産み、次の命を繋いでいこうです。卵は本当に小さいので、肉眼よりも虫眼鏡で観ようと、教員と子どもが興味深く一緒に観察していました。

ほぼ一連の命のサイクルを観察できたことはとても良い経験になりました。また、白い物だと思っていたマユは他にも色があることを知ったり、生物の不思議を観たりと学ぶこともありました。これから成長していくと思われる卵の観察も引き続き楽しみにしています。 ※ 蛾に成長しても上昇することはできず、メスを呼ぶために羽を羽ばたかしているそうです。



* 蚕が桑の葉を食べる様子



* サナギの観察中



* 照明を当て虫眼鏡を使って卵を観察中

◇ 水あそび ◇ 6月5日(月)より

子育てひろばでは異例の早さの水あそび。しかし、入梅したこともあり、なかなか遊ぶ機会に恵まれませんでした。しかし、中庭では砂や少しの泥あそびを楽しむ子もいました。水あそびといっても、すぐにお湯が使えるので、水あそびをする環境には恵まれています。水あそびができない日でも、中庭の砂場などで遊ぶことができます。室内だけではなく、中庭で思いきり遊ぶ時間はいかがですか？ 梅雨が明けたら、たっぷり水あそび(ミニプールやタライ)を楽しみたいです。 ※ 写真は昨年のもです



◆ **たいむ手芸部** ◆

手芸が苦手な方、興味のある方大歓迎です！



フェルトでフルーツなどを作ります。 ※ 写真は一部の例です。
見本はたいむに置いてありますので、ぜひご覧ください。(フェルトはたいむで用意します)

【日 時】 7月3日(月)～7月14日(金) 10:00～12:00

【場 所】 たいむ

【料 金】 100円～ (製作する物により異なります)

【持ち物】 針、糸、はさみ、各自必要なもの

◆ **流しそうめん** ◆ **たいむの夏のイベント第一弾！！**

みなさんお待ちかねのこの時期がやって参りました。夏の風物詩、流しそうめん。
今年は、『まんぶくCAFE』として行います。夕暮れ時の流しそうめん、どんな雰囲気になるのでしょうか？！ ※まんぶくCAFEのため、なるべく予約をしていただくと助かります。

【日 時】 7月21日(金) 15:00～20:00

【場 所】 短大 中庭

【参加費】 大人 300円 子ども 100円

【持ち物】 箸、茶碗、フォーク、着替え、各自必要なもの



◆ **第4回 ドジョウつかみ&柳川井** ◆ **たいむの夏のイベント第二弾！！**

なかなか掴めないドジョウに大人も子どもも大奮闘！ ドジョウつかみの後は、柳川井 & から揚げにして食べます。
ドジョウの味は、「想像していたより美味しい」という声も・・・！！ ぜひご参加ください。



【日 時】 7月26日(水) 11:30～13:00

【場 所】 短大 中庭

【参加費】 300円

【持ち物】 箸、スプーン、飲み物、着替えなど

◆ **たいむの夏季休業期間について** ◆

短期大学の夏休みに伴い、8月11日(金)～8月17日(木)まで少しの夏休みをいただきます。

通常開室は8月21日(月)のおやこのじかんからとなります。

* 8月18日(金)・・・中庭にて、まんぶくCAFEのみ行います。(時間未定)

* 8月19日(土)・・・たいむにて、ツキイチたいむ (10:00～15:00)

※ 詳細は8月号にてお知らせいたします。